

～小須戸町民 海外視察研修報告～

先月号に続いて、研修の報告を掲載します。

(なお、この報告は、提出されたレポートの中から抜粋して掲載しています。)



上には大切な要件の一つです。

今回視察したフランクフルト、フライブルク、チューリッヒ、いずれも日本のそれとは考え方が違っており、都市のゴミ問題をいかに重要視しているかという点は当町においても大変学ぶべきものがあつたように思います。

フライブルクにおいては、ゴミ集積もさることながら、その処理についても、日本でも行っている都市があるかどうかかわかりませんが、ゴミの集積地からのゴミ処理熱によってその都市の人々が恩恵を受けて、ゴミと共存をはかって生活するという理想的な都市環境

を造っていました。コスト面ではどうか分かりませんが、ドイツ人全体のゴミ問題に対する考え方の一端をみたくに思いました。そういう都市環境という点で、市民と行政と一緒に考えた考え方、一貫性を持った都市生活を目指している姿は当町においても参考にできることではないかと思われまふ。それは、都市の再開発を行う上でも同じことで、古いものをなくすのではなくて、古いものと新しいものの調和を計りながら町民の生活環境を考えていくことこそ重要ではないかと思ひます。

ゴミ問題をテーマに 環境を考える

長谷川啓子さん(本町5)

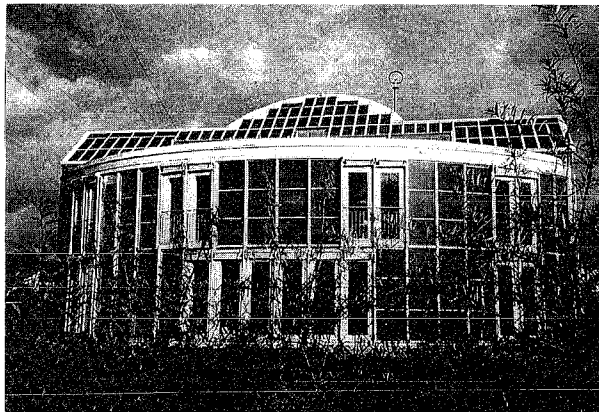
『子ども達に、将来わが町を誇りに思ってもらいたい』テーマが環境保護政策の視察への参加の動機はこんな思いからであった。私自身、町外から嫁いで14年。また、また、『わが小須戸町』と言い切れないのが本音。でも、ここで生まれ育つ子どもたちは、ここが『わが町』である。この町のすべての環境(自然環境も、社会環境も)をより良くしていきたい。この思いは、

エコロジー・シティ フライブルクからの メッセージ

吉田昭子さん(舟戸1)

私たちが最初に訪れたのは、アルタルスキー・ハウス(自給自足住宅)です。南に向き弓形に広がっている透明な家は、植物を育てている温室の様な外観で私たちの感覚の住宅とはかけ離れています。14カ月の建設期間を明け完成されたコンピューターのシミュレーション計算の結果、ソーラーエネルギーを最大限利用できるよう設計されました。外壁はソーラーヒーターの役割をするように透明な断熱材が貼ってあり熱が必要な時、前面壁は黒く見えブラインドが降ろされると銀色に見える様になっています。この住宅のシステムの核となっているものは水素による四季を通してのエネルギー貯蔵システムということ。建設コストが高いことや、これからいくつもの問題点が出てくること予想されることを考えると市民が住むためには、長い時間とたくさん研究が必要とされることでしょうか。将来に向けてのテクノロジーの躍進と成功に期待したいと思います。

ソーラー・アルタルキーハウス(自給自足住宅)



フライブルクの市内を歩いていてそれぞれ家の前にバケツが置いてあるのを見かけます。このバケツは60リで年間1万3千円、240リで5万円で市から借ります。ゴミを多く出せばそれだけお金がかかるので減量するよう努力します。市民にはゴミカレンダーが配られます。私の家の台所にもこのようなカレンダーが貼ってあります。とても細かく説明してあるにもかかわらず、ゴミステーションへいくとビンも缶も一緒に袋に入っていたりため息をつく場面があります。とても悲しいことです。

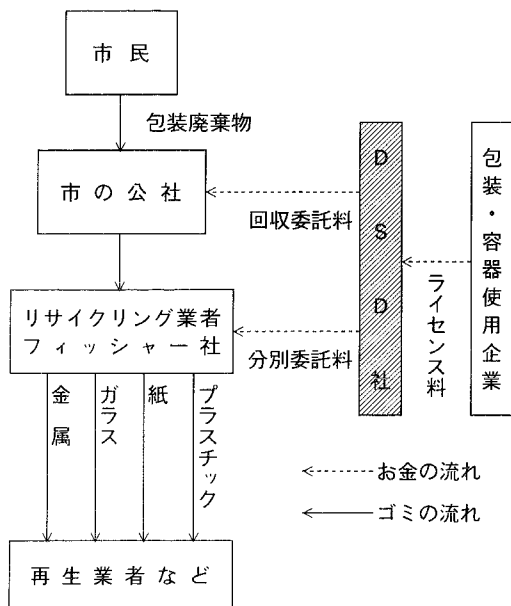
ゴミ袋の有料化が実施されている所で名前を書くようになっていてもライバシーとか言っていて書かない人が殆どですが、フライブルクでは家の前に出すのですからライバシーなどは言われてられません。正しく捨てるのは当たり前で、自分の出したゴミに責任を持つのは当然のことでしょう。『環境へのおもいやり・人へのおもいやり』国境を越え、現代世代と未来世代の時間の壁を越えたおもいやりで地球環境を守る意識を常に持ち続け生活していきたいと思ひます。

▽お詫びと訂正

先月号で掲載した、吉田マツさんの住所が間違っていましたのでお詫びして訂正いたします。

誤(雁巻1)
正(新町2)

フライブルク市の家庭からの 包装廃棄物の流れ



フライブルク市のゴミ分別

ゴミ/廃棄物	収集容器/収集先	収集日/開設時間	収集方法
生ゴミ等、リサイクル不可能なもの	グレーの容器	週1回	収集車
新聞 古紙 本 雑誌 ダンボール カタログ 包装紙等	グリーン容器	2週間に1回	収集車
缶 テトラパック プラスチック 金属 プラスチック容器 透明ラップ スチロール スプレー容器(空) プラスチックボトル等	グリーン容器 (黄色の蓋)	2週間に1回	収集車
ガラス瓶(透明/茶色/ 緑色の3種類)	ガラスコンテナ	平日8時~19時	持参
電池	役所・学校・商店		持参
靴	市内靴専門店等 (約16店)		持参
古着	市内収集所 (約23カ所)		持参
自転車タイヤ	市内自転車店		持参有料



駐車場と住居が一体化された建物

母親としてのエネルギーが源であり同じ時代を生きていく子ども達への愛。スイスのチューリッヒではゴミの減量化のために、指定された有料のゴミ袋以外には使えないという方法をとっている。もし、その指定以外のゴミ袋で出した場合、とても高い罰金を課せられる。出した人を特定するためにゴミの中からも小さな紙片も見逃さない。定着するまで何年かかかったが、個人のモラルの問題は、罰金制にして解決するしかないようだ。日本の空き缶拾いのようなことは、スイスでは考えられない。人の捨てたゴミをどうして無償で拾わなければならないのか?とスイスの現地ガイドの方が言っていた。

この1ヵ月間、新聞で日に付く文字は「エネルギー」「環境」「自然保護」であった。環境を考えるということは、人を愛し、地球を愛し、自分を愛するということだと思ひます。こんなに素敵な出会いのチャンスを持てたのは、海外研修の仲間としてサークル的な活動に発展していったら楽しみなことではないでしょうか。もちろんテーマは違っていますが、環境班、教育班、福祉班など研修成果を交換し合い、お互いの意識を高め合う仲間作りの会です。そういう活動が、社会を変える力になっていくと考えます。そして将来、わが小須戸町にも国際姉妹都市を見つめましょう。

子ども達が夢を持って、明日が楽しみだと思ひ、そんな環境を作ってあげたい。大人達も夢を持って、その夢がただの空想で終わらない事を願って。